2019 年度 福祉助成金（研究助成）完了報告書　提出用

公益財団法人 橋本財団
理事長 橋本 俊明 様

2020 年　5　月　29　日

ふりがな	かわさきいりょうたんきだいがく			
大学 研究機関名	川崎医療短期大学			
代表者名	役職名	助教	氏名	弘中　藍子
連絡先	住所	岡山県倉敷市松島 316		
	TEL	086-463-4339		
	E-mail	a-hironaka@jc.kawasaki-m.ac.jp		
	URL			
助成額	249,560　円			
研究要旨	虐待リスク要因であると高率に認識されていた項目は，被虐待歴（97.1%），DV 被害（92.2%）であったが，妊婦全員に確認をしているとの回答は，被虐待歴 2.9%，DV 被害 9.7%と低率であった．いずれも約 6 割の施設で，必要と思われる妊婦にのみ確認しており，現場での臨機応変な対応が鍵となっていた．医療者の経験年数や信頼関係に左右されることなくハイリスク者を抽出するため，自記式のスクリーニングツールを現場で活用するなど，体制の見直しが必要である．過去の流産・死産経験は非経験群と比較して精神的不調を来しやすく要支援の対象であるが，虐待リスク要因であるとの認識は 16.5%と低率であった． 子ども虐待対応に関する研修会への参加経験は，ハイリスク者の発見およびハイリスク者の対応への自信に関連していた．自施設に子ども虐待に対応する委員会等を有することは，ハイリスク者への対応の自信に関連していたが，その約 9 割が周産期医療センター・一般病院であり，診療所における医療者間の相談体制の不足が示唆された．施設同士の情報交換を目的の一つとした研修会等の開催や地域連携の強化により，施設間で妊産婦が受けるケアの格差をなくすことが課題である．			
研究の目的	以下の子ども虐待に関連する項目について調査し，産科医療施設における子ども虐待予防に向けた課題を検討する． ①分娩取扱医療機関における，子ども虐待リスク因子アセスメントの実施状況 ②子ども虐待リスク要因に関する産科スタッフの理解度			
研究の 実施方法	1）研究対象　中国四国地方の分娩取扱施設 105 施設（回収率 46.0%） 2）調査機関　2019 年 6 月～7 月 3）データ収集方法 分娩取扱医療機関の産科外来代表者宛に，説明文書，研究への参加依頼書および無記名自記式質問紙を同封して郵送し，質問紙に記入後返送してもらった． 4）調査内容 ①施設の背景情報②子ども虐待リスク因子アセスメントの実施状況③質問紙回答者の心理的情報④子ども虐待予防への取り組みで構成した． 5）データ分析方法：子ども虐待のリスク要因アセスメントの実施状況，質問紙回答者の心理的情報，子ども虐待予防への取り組みは度数の割合の差の検定とし，χ^2検定を行った．子ども虐待予防への取り組み及び回答者の心理的情報の関連については多重ロジスティック回帰分析を行った．分析には IBM SPSS Statistics26 を使用した． 6）倫理的配慮：質問紙は無記名とし，回収後に連結不可能となるよう処理を行った．研究参加への同意は質問紙に説明文書及びチェック欄を設け，記入・返送をもって同意とした．質問紙は研究終了後に破棄すること，データは研究以外の目的で使用することはない旨を明記した．本研究は，川崎医療短期大学倫理審査委員会（承認番号：2019-001）に承認され実施した．			

研究の成果	子ども虐待リスク因子各項目の認識，妊婦健康診査における確認状況，子ども虐待リスク因子のアセスメントに関連する因子，医療者の対応への自信に関連する因子が明らかになった．
研究の成果の公表状況 今後の公表予定について	未定

＊2020 年 5 月 31 日締切です．必要事項を入力のうえ Word ファイルをメールにてご提出ください．